

伊藤製糸室山工場の創設者

いとう ござえもん

伊藤小左衛門翁



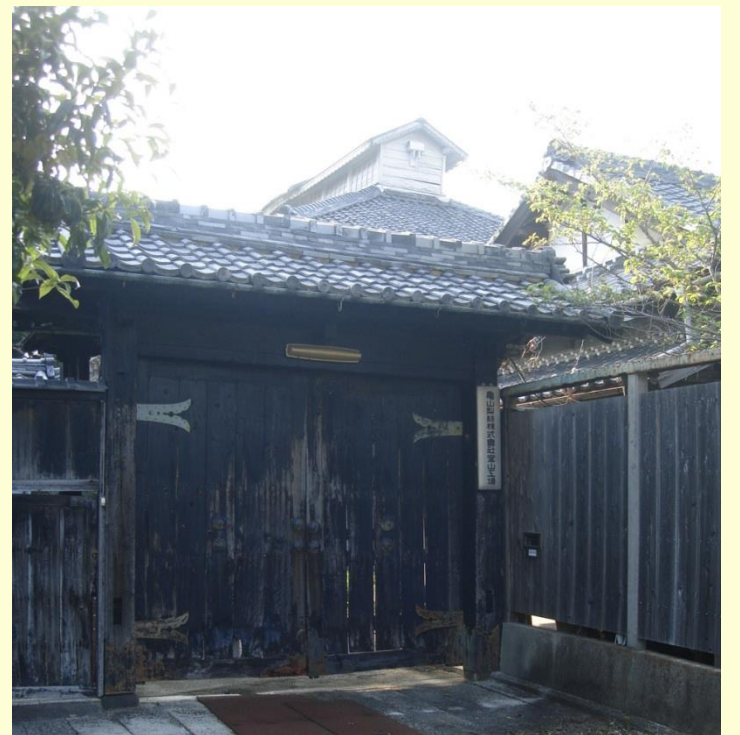
伊藤家は室山村(現在：四日市市室山町)で代々農業を営んでいたが、祖父の三世・小左右衛門の代からみそづくりを始めた。醸造業は「室山のみそ・ヤマコ味噌」と言われ興隆した。1852(嘉永4)年に苗字帯刀御免となった。

五世伊藤小左衛門尚長(幼名：小四郎、後の小平治)は1819(文政元)年に生まれ、15歳で家業についた。その後、祖母、長男、父、妻に死別するという不幸に見舞われ、さらに1855(安政2)年の大地震により壊滅状態となった。しかし短期間のうちに復興させ、武蔵国忍藩の大矢知陣屋の役職、御蔵米払問屋に就任、「代官格上席」となり、近隣から茶を集めて横浜へ送り巨利を得た。そして自ら横浜に出向き、市場では茶と

生糸が欧米人に人気があることを知り、養蚕業を農家に奨励し、桑苗を植え、1874(明治7)年に手繰り器械製糸工場、伊藤製糸場を建設した。また、1872(明治5)年に学区取締に就き、明治9年に自邸内にあった私塾を笹川学校(現在：四郷小学校)にした。

政府は1872(明治5)年に官営富岡製糸場を建設した。ここに甥・小十郎(弟の長男)、姪・りき(弟の長女)および小十郎の新妻つうと共に製糸研修のため富岡を訪れ、りき、つうを伝習生とした。りき、つうは帰省後病死、小十郎はよしえと再婚し技術を高めた。

小左衛門は武州の山本長平に1876(明治9)年に蒸気機関の製作を依頼、1882(明治15)年に三重県で最初の蒸気機関を伊藤製糸所内に設置した。この



ように生糸生産に向けて試行錯誤を続け、良質の生糸が輸出された。

- ① 1877(明治10)年：第1回内国勸業博覧会—最優秀品として受賞
- ② 1895(明治18)年：米国博覧会に入賞
- ③ 1901(明治34)年：フランス万博金賞受賞

するなど世界的に伊藤製糸が高く評価され国益に貢献した。

小左衛門は1879(明治12)年に病没、1888(明治21)年、四日市諏訪町の諏訪神社社頭に「伊藤小左衛門の碑」が建立されたが、1976(昭和51)年に四郷小学校創立100周年を機に小左衛門ゆかりの同校校庭に移設された。

